

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です

第11回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成21年1月28日(水) 18:00より、第11回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。魅力ある鵜川を未来へ引き継ぐための想いである『美しい川宣言(案)』。この目標達成に向けたアクションプログラムについて具体案を出し合う意見交換を行いました。12名の委員が出席しました。

意見交換

1. 開会挨拶

- * 100年後の皆さんの子孫が、ここで生まれて良かったと思える地域をつくるために、何を議論して、何を提案して、どういう協力を求めていかなければならないのかを主張し、この議論を地域の力にしていきたい。
- * お金にかえがたい財産を作り上げることの大変さ、重要さ、必要性を、この川を中心に作り上げてみたらすばらしい。

2. 第11回鵜川・ピリカ・プロジェクト会議

- * 第11回は目標達成に向けたアクションプログラムを考えたい。皆さんにはアクションプログラムを付箋に記載し、どういう思いで書いたのが発言いただいた中で、さらに肉付けしていただきたい。
- * 目標達成に向けたアクションプランということで、これまでの会議の中でもそれらしいことが出てきているが、それ以外に気づかないこともあると思うので、それぞれの考え方を提示していただきたい。
- * 宣言案は年度内(3月)までに成果としたい。案であるのでアクションプランをしながら、この会だけではなく広く皆さんの意見を聞きたいと思っている。
- * 6月には水防演習、新年度からは一級河川鵜川の整備計画がスタートする重要な時期であることから、できればそれらとタイミングをあわせる形で美しい川宣言ができることが理想である。

観光、教育・文化のアクションプラン

- * わき水のところにサンショウウオがいたり、断崖のところにカワセミがいるなど手がついていない自然の箇所や、太いやナギがあるところは長年災害からずれている場所であったり、そんなところを含めてマップを作ったらどうか。
- * 鵜川には昔渡舟場が2箇所あり、農作業や通学に利用されていた。そういった部分をお年寄りの力を借りながら子供達が体験していくことが学びになるのではないかな。
- * 子供達に学びをさせていくには、系統立てて作られた教材が必要である。このような組織がリーダーシップをとって作っていく必要がある。
- * 整えられたフットパスがあれば、みんなが利用しやすい。まずは川に近づくことがいいのではないかな。
- * 鵜川と言ったらシシャモだと思う。シシャモがよく育つきれいな川。
- * 鵜川ではシシャモアレットピアやカムイノミがあるが、ただ観るだけである。参加して体験してもらうことが大切である。

意見交換会（抜粋）

- * 10月中旬から12月上旬に集中して訪れる観光客に向けて、町民がイベントを持ったり、ガイドしたりすることがいいのではないかな？
- * シシャモは生態がほとんど知られておらず、シシャモのことを知らない方が多い。むかわに来てシシャモを食べることがあるので、シシャモをよく知ってもらうための施設があると良い。
- * 美々川ではカヌーの会社が商売を行っており、観光客がたくさん来ている。鶴川でもそういう人とうまくタイアップしていくことで、おもしろいことができるかもしれない。
- * 鶴川のシンボルになる言葉や絵などがあるとよい。
- * ピリカポイントを指定して、整備・保全を流域住民が行う参加型の河川整備ができないかな？
- * 水辺の楽校という組織があり、うまく利用していくことで、子供達の体験学習や川を考えたまちづくりができるのではないかな？
- * むかわの人が自分たちで鶴川のいいところを探して全国に発信していく。住民で考える参加型のイベントが必要だ。
- * 学校にビオトープを作ることによって、雨が降れば水がたまり、そこに植物が生えて、生物が集まる変化を見ることができる。じかに体験したり、観察することが必要だ。
- * 人の営みのために変化した自然を、努力して復興する人の営みを体験するエコツアーがあると面白い。

環境、防災のアクションプラン

- * 意外と知っているようで知らない季節毎の情報をきちんと発信しなければいけない。
- * 「鶴川シシャモ伝説」をブランド化していろいろな商品を作ると、他の地域ではまねができない、いろいろな商売が生まれる。
- * 山の上に行くと川を上から見下ろすところがあり、遠目でのすばらしい景観を、子供たち、お年寄りや歩けない人にも見せてあげたいと感じている。
- * 地域のマップを作ることにより、危険な場所や避難先、避難経路、お年寄りなどの要援護者がいる場所がわかるのではないかな？
- * 水害に限らず、地震や防犯などいろいろな地域情報が入った地域マップを作ることによって、防災に役立つ。
- * 防災意識を高めるためにも、できるだけ広く流域住民に防災訓練への参加を求めていく必要がある。
- * 訓練では災害のときの備えも含めてやっていくことが大切だ。
- ・ 水防演習では堤防の決壊や大雨の時の災害対応を実施すると聞いているので、一般の人にぜひ見ていただきたい。
- * 運動会で土のう積みの競技があれば、子どもたちにも馴染みやすい。
- * 災害発生時に、ひとり暮らしや体の不自由なお年寄りを含めて、地域全体の安全を守っていくためには、地域や町内会単位の防災訓練が必要だ。
- * 外に出て情報を共有する施設があれば、避難したりや被害を見つけるのに効果的である。
- * 地域の人たちが事業所と共に監督したり、ショベルを持つなり一緒にメンテナンスしていくことがよい。

事務連絡

- * 6月に水環境の全国一斉調査を実施するのでご希望の方はご連絡いただきたい。